

事業報告書

令和6年度

(第17期事業年度)

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

1 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

2 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

3 沿革

平成 20 年 4 月 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構設立

- ・山形県立日本海病院を日本海総合病院として開院
- ・酒田市立酒田病院を日本海総合病院酒田医療センターとして開院

平成 30 年 4 月 酒田市立八幡病院の統合等

- ・酒田市立八幡病院等を統合、日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所を運営開始
- ・酒田医療センターを日本海酒田リハビリテーション病院に改名

4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

5 所在地（令和 6 年 4 月 1 日現在）

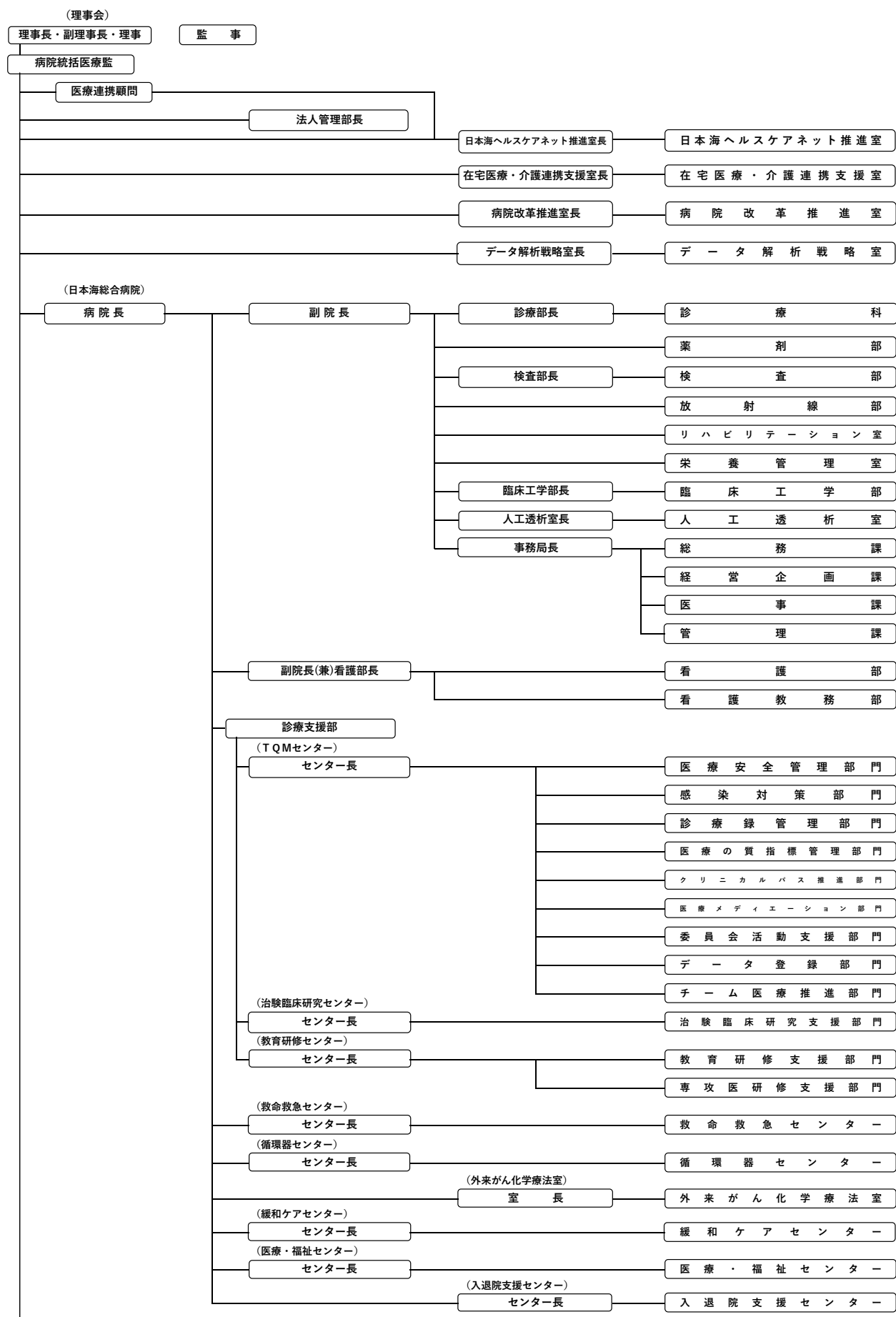
- (1) 法人の主たる事務所 酒田市あきほ町 30 番地
- (2) 設置、運営する病院及び診療所

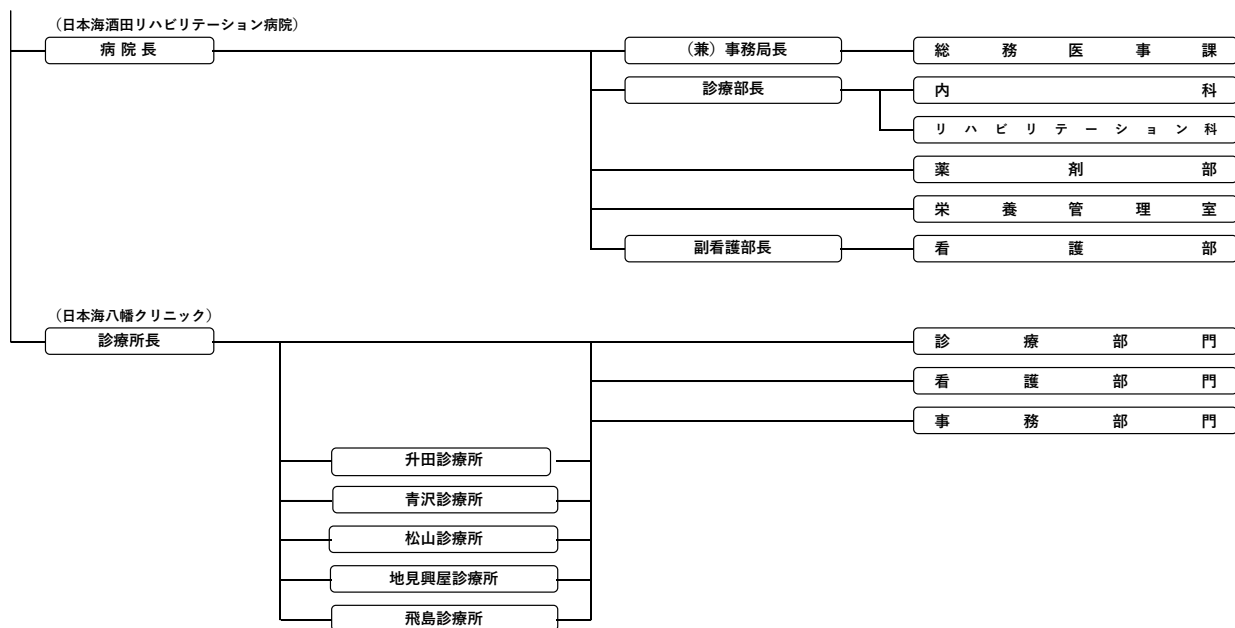
日本海総合病院	酒田市あきほ町 30 番地
日本海酒田リハビリテーション病院	酒田市千石町二丁目 3 番 20 号
日本海八幡クリニック	酒田市小泉字前田 37 番地
升田診療所	酒田市升田字東向 16 番地
青沢診療所	酒田市北青沢字家の前 280 番地
松山診療所	酒田市字西田 8 番地の 1
地見興屋診療所	酒田市地見興屋字前割 9 番地の 1
飛島診療所	酒田市飛島字勝浦甲 66 番地

6 役員（令和6年4月1日現在）

役 職	氏 名	任 期	経 歴	備 考
理事長	島貫 隆夫	令和6年4月1日 ～ 令和10年3月31日	平成28年4月 日本海総合病院 病院長 令和5年4月 現職	病院統括医療監
副理事長	橋爪 英二	令和6年4月1日 ～ 令和10年3月31日	令和4年11月 日本海総合病院 院長代理 令和5年4月 現職	日本海総合病院 病院長
理 事	尾鷲 和也	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成30年4月 日本海総合病院 副院長 令和5年4月 現職	日本海酒田リハ ビリテーション 病院 病院長
理 事	井出 佳宏	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院 診療部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	内野 英明	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院 診療部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	鈴木 義広	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院 診療部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	工藤 雅哉	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成25年4月 日本海総合病院 診療部長 令和2年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	佐藤 由紀	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成31年4月 日本海総合病院 副看護部長 令和5年4月 現職	日本海総合病院 副院長 (看護部長)
理 事	松本 宏	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成30年4月 山形県庄内総合支庁総務企画部 総務課長 平成31年4月 現職	法人管理部長
監 事	齋藤 俊勝	令和2年8月20日 ～ 令和5年度について の財務諸表の承認の 日	昭和48年6月 公認会計士齋藤俊勝事務所 代表取締役 平成20年4月 現職	公認会計士
監 事	加藤 栄	令和2年8月20日 ～ 令和5年度について の財務諸表の承認の 日	平成24年8月 山形海区漁業調整委員会 会長 平成20年4月 現職	弁護士

7 組織（令和6年4月1日現在）





8 資本金の状況（令和7年3月31日現在）

	令和5年度 (令和6年3月31日)	令和6年度 (令和7年3月31日)	増 減
資本金合計	19,624,389,029 円	19,624,389,029 円	0 円
山形県出資金	11,527,033,307 円	11,527,033,307 円	0 円
酒田市出資金	8,097,355,722 円	8,097,355,722 円	0 円

9 常勤職員の状況（令和7年3月31日現在）

病 院		日本海総合病院			日本海酒田リハビリ テーション病院			診療所		
		R05	R06	増減	R05	R06	増減	R05	R06	増減
医師・歯科医師	職員数	158	154	△4	4	5	1	2	2	0
	平均年齢	39.8	40.6	0.8	62.3	61.6	△0.7	49.0	50.0	1.0
医療技術員	職員数	180	182	2	46	52	6	1	1	0
	平均年齢	38.5	38.9	0.4	34.3	33.8	△0.5	36.0	37.0	1.0
看護・介護職員	職員数	573	573	0	55	55	0	13	14	1
	平均年齢	39.8	40.0	0.2	48.8	49.1	0.3	52.7	48.6	△4.1
事務職員	職員数	55	66	11	4	4	0	2	2	0
	平均年齢	40.4	41.0	0.6	45.5	46.5	1.0	54.5	55.5	1.0
スタッフ職員	職員数	29	29	0	3	3	0	0	0	0
	平均年齢	49.7	50.9	1.2	47.7	48.7	1.0	—	—	—
計	職員数	995	1004	9	112	119	7	18	19	1
	平均年齢	39.9	40.3	0.4	42.9	42.8	△0.1	51.6	51.6	0.0
法人職員	職員数	995	1,004	9	112	119	7	17	18	1
	平均年齢	39.9	40.3	0.4	43.2	42.8	△0.4	52.5	49.5	△3.0

県派遣職員	職員数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平均年齢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
市派遣職員	職員数	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	平均年齢	—	—	—	—	—	—	36.0	37.0	1.0

病 院 職種		法人計		
		R05	R06	増減
医師・歯科医師	職員数	164	161	△3
	平均年齢	40.5	41.3	0.8
医療技術員	職員数	227	235	8
	平均年齢	37.7	37.8	0.1
看護・介護職員	職員数	641	642	1
	平均年齢	40.8	41.0	0.2
事務職員	職員数	61	72	11
	平均年齢	41.2	44.2	3.0
スタッフ職員	職員数	32	32	0
	平均年齢	49.5	50.7	1.2
計	職員数	1,125	1,142	17
	平均年齢	40.4	40.4	0.0
法人職員	職員数	1,124	1,141	17
	平均年齢	40.4	40.7	0.3
県派遣職員	職員数	0	0	0
	平均年齢	—	—	
市派遣職員	職員数	1	1	0
	平均年齢	36.0	37.0	1.0

Ⅱ 令和6年度の財務情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(百万円)

資産の部	金 額	負債の部	金 額
固定資産	30,324	固定負債	13,419
有形固定資産	19,357	資産見返負債	1,707
無形固定資産	32	長期借入金	4,910
投資その他資産	10,935	移行前地方債償還債務	32
流動資産	17,296	長期寄付金債務	30
現金及び預金	13,145	引当金	6,740
有価証券	0	流動負債	4,015
未収入金	3,986	一年内返済予定長期借入金	951
たな卸資産	139	一年内返済予定移行前地方債償還債務	4
その他	26	未払金及び未払費用	2,274
		預り金	74
		引当金	711
		負債合計	17,434
		純資産の部	金 額
		資本金	19,624
		資本剰余金	6,544
		利益剰余金	4,018
		純資産合計	30,186
資産合計	47,621	負債純資産合計	47,621

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(2) 損益計算書

(百万円)

科 目	金 額
営業収益	25,523
営業費用	24,521
営業外収益	226
営業外費用	1,332
経常損失	103
臨時利益	20
臨時損失	18
当期純損失	101
目的積立金取崩額	355
当期総利益	254

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(3) 純資産変動計算書

(百万円)

	I 資本金	II 資本剰余金	III 利益剰余金	IV 評価・ 換算差額等	純資産合計
当期首残高	19,624	5,199	5,484	0	30,306
I 資本金の当期変動額	0	0	0	0	0
II 資本剰余金の当期変動額	0	1,345	0	0	1,345
III 利益剰余金の当期変動額	0	0	△ 1,466	0	△ 1,466
IV 評価・換算差額等の当期 変動額	0	0	0	0	0
当期変動額合計	0	1,345	△ 1,466	0	△ 120
当期末残高	19,624	6,544	4,018	0	30,186

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(4) キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	1,177
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	5
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 752
IV 資金増加額	429
V 資金期首残高	9,216
VI 資金期末残高	9,645

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(5) 行政コスト計算書

(百万円)

科 目	金 額
I 損益計算書上の費用	25,870
医業費用	24,356
一般管理費	165
営業外費用	1,332
臨時損失	18
II その他行政コスト	19
III 行政コスト	25,889

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

2 財務諸表の概要

主要な財務データの前年度比較・分析

(百万円)

区 分	令和5年度	令和6年度	増 減
当期総利益	761	254	△ 507
資 産	48,147	47,621	△ 526
負 債	17,841	17,434	△ 406

業務活動によるキャッシュ・フロー	1,671	1,177	△ 494
投資活動によるキャッシュ・フロー	913	5	△ 908
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 714	△ 752	△ 38

(当期総利益)

総収益 257 億 69 百万円に対し総費用 258 億 70 百万円で当期純損失は 1 億 1 百万円となった。前中期目標期間繰越積立金から 3 億 55 百万円取崩し当期総利益は 2 億 54 百万円とり、前年比で 5 億 7 百万円減少した。

(資産)

令和 6 年度末時点の資産合計は、前年比で 5 億 26 百万円減少した。これは、医業費用の増収に伴い、流動資産の現金預金及び有価証券の保有額が 5 億 71 百万円減となったことが主な要因である。

(負債)

令和 6 年度末時点の負債合計は、前年比で 4 億 6 百万円減少した。これは、固定負債及び流動負債の長期借入金が合計 7 億 32 百万円減となったことが主な要因である。

(純資産)

令和 6 年度末時点の純資産合計は、前年比で 1 億 20 百万円減少した。これは、当年度総利益が 5 億 7 百万円減となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

令和 6 年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 4 億 94 百万円減少した。これは、前年度と比較して診療業務収入が 3 億 67 百万円増加したものの、補助金等の収入が 2 億 97 百万円減、材料費の支出が 5 億 15 百万円増となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

令和 6 年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 9 億 8 百万円減少した。これは、有形固定資産の取得による支出が 8 億 12 百万円増となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

令和 6 年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 38 百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して長期借入金の償還に係る運営費負担金の収入が 2 億 3 百万円減、長期借入金償還による支出が 1 億 53 百万円減となったことが主な要因である。

3 重要な施設等の整備等の状況

- ・Ⅲ－第 7－1 (41 ページ) 参照

4 予算及び決算の概要

- ・Ⅲ－第 3 (37 ページ) 参照

5 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

- ・Ⅲ－第 2－4 (2) (35 ページ) 参照

Ⅲ 令和6年度の事業概要

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニック等診療所は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「思いやりの心を大切にします。」「質の向上に努め、安全な医療を提供します。」「地域との連携を促進し、住民の健康と福祉の向上を目指します。」「持続可能な病院経営を通して、地域に貢献します。」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取り組みを行った。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 医療機能の分化・連携の推進

地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、看護管理者間、介護施設間の連携強化等の取り組みを通して、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

【実績】日本海ヘルスケアネット内の人事交流

出向元	出向先	職種	人数	備考
健友会	病院機構	医師	4名	平日診療
病院機構	健友会		8名	水・土・日の宿日直、在宅往診の応援
病院機構	継和会		1名	外来応援（毎週木曜日の午後）
医師会	病院機構		9名	木・土の宿日直
病院機構	健友会	看護師	5名	透析室
病院機構	宏友会		4名	診療所、老健
健友会	病院機構		1名	手術室
継和会	病院機構		2名	心臓リハビリ研修
病院機構	健友会	診療放射線技師	1名	休職者の応援
継和会	病院機構	事務	1名	心臓リハビリ研修

【実績】日本海ヘルスケアネット看護管理者ネットワーク会議

活動項目	活動内容
「施設見学を通じた顔の見える関係作り」 内容：各参加施設の見学を通じて、課題について意見交換等の実施	令和6年5月24日開催 場所：山容病院 令和6年8月23日開催 場所：養護老人ホームかたばみの家 令和6年12月6日開催 場所：本間病院 見学を通して施設ごとの課題や実情を共有し、管理者として人材確保等や施設間における患者・利用者の受け入れの課題等、幅広く具体的な意見交換を実施した

「この地域を感染から守る」 内容：感染症対応等タイムリーに情報交換し、感染拡大を防止する	チャット等を通じた情報共有と意見交換により、拡大防止と迅速な対応に繋がった
「北庄内地域の食支援の質の向上」 内容：誤嚥性肺炎の知識・技術を修得し実践することで誤嚥性肺炎が減少する	取組後の現状を共有し、OHA T（口腔健康評価ツール）の更なる定着化や今後の課題について検討した

【実績】日本海ヘルスケアネット介護ワーキング

介護報酬改定の動向やD X推進等の取り組みについてレベルアップを図るべく、共同研修を開催

令和6年4月8日開催：『介護報酬の全容と加算に込められたねらい』

令和6年4月26日開催：『ちようかいネットの概要について』

令和6年10月17日開催：『介護テクノロジーと27年を見据えた動き』

2 持続的・安定的な医療の提供及び医療水準の向上

（1）高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

① 日本海総合病院は、庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、ハイブリッド手術室の手術件数が164件、ロボット支援手術の件数が152件、放射線治療件数が5,510件と高度専門医療の充実を図るとともに、併せてD P C特定病院群の適用維持による医療の質の向上を図り、急性期医療及び高度専門医療の適切な提供に取り組んだ。

入退院支援センターの活用や、地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」の活用による診療情報の共有化等により、地域の他の医療機関や介護施設と連携し、入院から退院後の在宅や介護施設への移行の円滑化を図った。

【日本海総合病院の機能】（令和6年4月1日現在）

項 目	概 要								
許可病床数	<table> <tr> <td>一般病床</td><td>6 2 6 床</td></tr> <tr> <td>病床廃止</td><td>△ 4 0 床</td></tr> <tr> <td>感染症病床</td><td>4 床</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>5 9 0 床</td></tr> </table>	一般病床	6 2 6 床	病床廃止	△ 4 0 床	感染症病床	4 床	合 計	5 9 0 床
一般病床	6 2 6 床								
病床廃止	△ 4 0 床								
感染症病床	4 床								
合 計	5 9 0 床								
一般病床の機能別内訳	<table> <tr> <td>高度急性期</td><td>1 2 3 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>4 6 3 床</td></tr> <tr> <td>休床</td><td>一床</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>5 8 6 床</td></tr> </table>	高度急性期	1 2 3 床	急性期	4 6 3 床	休床	一床	合 計	5 8 6 床
高度急性期	1 2 3 床								
急性期	4 6 3 床								
休床	一床								
合 計	5 8 6 床								

標 榜 科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
診療機能等	・救命救急センター（ICU、HCU） ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・認知症疾患医療センター ・臨床研修病院 など

(注) 許可病床数については、病床規模の適正化等により変更する場合がある。

(注) 一般病床の機能別内訳は年度計画策定時点での見込みであり、当該年度の病床機能報告数とは一致しない場合がある。

【実績】

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
平均在院日数	11.7日	12.0日	12.0日	11.7日
病床稼働率	76.8%	76.8%	83.7%	81.2%

目標とする全身麻酔手術件数の目標値については、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
全身麻酔手術件数	2,600件以上	2,888件

② 日本海酒田リハビリテーション病院は、回復期医療と慢性期医療を担い、回復期医療では、在宅復帰に向けた医療及びADL（日常生活動作）の向上を目的としたリハビリテーションを提供し、慢性期医療では、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等の受入れを行った。

【日本海酒田リハビリテーション病院の機能】（令和6年4月1日現在）

項 目	概 要
許可病床数	医療療養型療養病床 35床
	回復期リハビリテーション病床 79床
	合 計 114床
療養病床の 機能別内訳	回復期 79床
	慢性期 35床
	休床 一床
	合 計 114床

標 榜 科 (2 診療科)	内科、リハビリテーション科
診療機能等	・回復期リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・臨床研修病院 など

(注) 許可病床数については、病床規模の適正化等により変更する場合がある。

(注) 一般病床の機能別内訳は年度計画策定時点での見込みであり、当該年度の病床機能報告数とは一致しない場合がある。

目標とする回復期リハビリテーション実績指数の目標値については、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
回復期リハビリテーション実績指数	40 点以上	49.7 点

- ③ 日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関として一次医療の提供及び地域住民への訪問看護等を提供した。また、地域の医療ニーズを考慮した体制でへき地医療を提供した。

日本海八幡クリニックでは、木・金曜日延長診療、土曜診療及び訪問診療の実施並びに訪問看護ステーションの運営を行った。令和6年5月より医療Ma a Sによるオンライン診療を開始し、医療提供体制の拡充を図った。

松山診療所では、月・水曜日及び隔週金曜日の診療を行った。

飛島診療所では、日本海総合病院の医師による出張診療や遠隔診療を行うことで、必要な医療が確保されるよう努めた。

【日本海八幡クリニック】（令和6年4月1日現在）

項 目	概 要
標榜科（4 診療科）	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
診療機能等	・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション ・訪問診療、訪問看護（介護保険事業を含む）

【実績】日本海八幡クリニック

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延外来患者数	16,355 名	16,315 名	15,026 名	14,797 名
1 日平均外来患者数	55.6 名	56.1 名	50.5 名	50.7 名

【実績】訪問看護ステーションやわた

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延利用者数	3,193 名	3,501 名	3,817 名	4,885 名
1 日平均利用者数	9.4 名	10.1 名	10.8 名	13.7 名

【升田診療所】 【青沢診療所】（令和6年4月1日現在）

項 目	概 要
標榜科	内科

【実績】升田診療所

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延外来患者数	—	—	—	—
1 日平均外来患者数	—	—	—	—

※令和3～6年度受診希望者なし

【実績】青沢診療所

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延外来患者数	62 名	69 名	55 名	—
1 日平均外来患者数	5.2 名	5.8 名	5.5 名	—

※令和6年度受診希望者なし

【松山診療所】 【地味興屋診療所】 【飛島診療所】（令和6年4月1日現在）

項 目	概 要
標榜科（2診療科）	内科、外科
診療機能等	松山診療所：訪問診療、飛島診療所の遠隔診療

【実績】松山診療所

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延外来患者数	3,456 名	2,929 名	2,739 名	2,652 名
1 日平均外来患者数	14.6 名	18.5 名	25.3 名	23.9 名

【実績】地味興屋診療所

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延外来患者数	111 名	88 名	95 名	—
1 日平均外来患者数	2.9 名	4.4 名	6.3 名	—

※令和6年度受診希望者なし

【実績】飛島診療所

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延外来患者数	458 名	422 名	401 名	394 名
1 日平均外来患者数	2.6 名	2.7 名	2.7 名	3.2 名

ア 診療体制の充実

(ア) 救急医療（日本海総合病院）

庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、地域に信頼される医療の提供に努めた。また、救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携し、高度な処置が必要となる重篤な患者に対する三次救急診療を日本海総合病院の医師が担い、夜間救急外来での一次救急診療については、一般社団法人酒田地区医師会十全堂所属の医師が担当し、夜間救急の診療体制を維持した。

【実績】救命救急センター延べ患者数（日本海総合病院）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
19,861名	19,662名	20,500名	19,608名

【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数（日本海総合病院）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
131名	98名	89名	83名

【実績】救急車の搬送数（日本海総合病院）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
酒田地区 医療機関への搬送数 計	5,106名	5,418名	6,001名	5,741名
うち日本海総合病院への搬送数	3,133名	3,645名	3,927名	3,482名
鶴岡地区 医療機関への搬送数 計	5,161名	5,334名	5,701名	5,507名
うち日本海総合病院への搬送数	337名	314名	460名	484名
庄内地域での日本海総合病院の割合	33.8%	36.8%	37.5%	35.3%
救急搬送受入要請の応需率	100%	100%	100%	100%

目標とする地域救急貢献率は、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
地域救急貢献率	32%以上	35.3%

(イ) がん医療（日本海総合病院）

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、手術や放射線療法、化学療法等の集学的治療を継続して行った。

放射線療法においては、より適切で効果的ながん医療の提供により、強度変調放射線治療（IMRT）、定位放射線治療（SRT）といった高度な治療を行った。

外来での化学療法治療の質の向上に努め、患者の状態を踏まえた必要な指導を行うとともに、地域の保険薬局の薬剤師等を対象とした研修会の実施等の連携体制を整備した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法件数

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
手術	1, 167 件	1, 156 件	1, 220 件	1, 250 件
放射線療法 (実件数)	6, 577 件 (240 件)	6, 582 件 (184 件)	6, 119 件 (176 件)	5, 510 件 (139 件)
うち I M R T (実件数)	— —	2, 639 件 (73 件)	2, 825 件 (86 件)	2, 723 件 (102 件)
うち S R T (実件数)	30 件 (9 件)	27 件 (9 件)	28 件 (8 件)	75 件 (7 件)
外来化学療法	7, 730 件	7, 503 件	8, 141 件	8, 475 件

【実績】地域の保険薬局薬剤師を対象とした研修会の実施

実施日	内容	参加人数
R6. 4. 25	連携充実加算に伴う研修会 「抗がん薬に対する副作用と対策」他	51 名
R6. 8. 22	連携充実加算に伴う研修会 「連携充実加算について」他	43 名

より適切ながん医療を提供するために山形大学医学部附属病院腫瘍内科医師を招集し他職種による検討を行うがんサージングボードを定期的を開催するとともに、がんゲノム検討会を開催し58件の検討を行った。

【実績】がんサージングボード回数及び症例数

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
回数	26 回	37 回	34 回	21 回
症例数	163 症例	141 症例	152 症例	72 症例

がんゲノム医療連携病院として、遺伝子パネル検査を継続して行い、一人ひとりに適した治療法の提案に努めた。

【実績】遺伝子パネル検査実施件数

令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
55 件	75 件	84 件	72 件

がん相談支援センターにおいて、がんの治療、セカンドオピニオン、在宅療養、医療費などについての相談に応じ、がんの治療にかかわる不安や悩みの解決をサポートした。

【実績】がん相談件数

令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1, 808 件	1, 384 件	1, 426 件	1, 307 件

- ② 適切な緩和ケアの早期提供のため、緩和ケアスクリーニングを行い、緩和ケア医療の充実に努めた。

【実績】緩和ケアスクリーニング実施件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院	4,300件	4,368件	4,297件	4,624件
外来	671件	658件	633件	715件

医師及び多職種に対する緩和ケア研修会を開催し、緩和ケア医療提供の体制強化に努めた。

【実績】がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受講医師数	112名	104名	101名	112名

- ③ がん対策の進展に貢献するよう、中級認定者を専従として1名、初級認定者を専任として1名配置し、院内がん登録及び全国がん登録を実施した。

【実績】がん登録件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象年	2020年症例	2021年症例	2022年症例	2023年症例
院内がん登録	1,881件	1,961件	1,954件	2,005件
全国がん登録	1,891件	1,969件	1,964件	2,013件
庄内地域 院内がん登録 合計※	2,368件	2,892件	2,855件	2,870件
庄内地域での日本海総合 病院の割合 ※	79.4%	67.8%	68.4%	69.8%

※国立がん研究センター院内がん登録全国集計から算出

(ウ) 脳卒中・心筋梗塞等の心血管疾患（日本海総合病院）

- ① 急性期医療において内科的・外科的治療を速やかに行い、機能回復のためのリハビリテーションの早期開始に努めた。また、継続して休日のリハビリテーションを提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管	763名	45,582回	851名	48,047回	821名	45,537回	734名	40,146回
心大血管	639名	10,849回	638名	9,731回	652名	8,944回	658名	8,578回

【実績】休日のリハビリテーション実施状況

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管	695名	5,660回	612名	2,706回	661名	3,956回	609名	4,177回
心大血管	440名	1,213回	395名	757回	400名	956回	429名	901回

- ② 脳梗塞の血栓回収療法等、脳卒中に対する適切な急性期医療の提供体制を整え、医師・看護師・コメディカルスタッフと連携し、適切かつ速やかな治療を提供した。

【実績】血栓回収療法、t-PA実施件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
血栓回収療法	5件	4件	11件	13件
t-PA	26件	18件	24件	28件

- ③ 酒田及び鶴岡地区管内全ての救急隊に配備されている12誘導心電図伝送システムを活用し、重篤患者の治療を行った。

【実績】12誘導心電図伝送件数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
348件	357件	469件	409件

急性心筋梗塞の救急搬送患者に対して、速やかに集中治療室に転送し、迅速な救命治療を実施した。また、病院に到着する前に院内放送で心筋梗塞チームを参集し、救急搬送直後から治療にとりかかるシステム運用した。

【実績】経皮的冠動脈形成術及び経皮的冠動脈ステント留置術件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
急性心筋梗塞に対するもの	42件	44件	64件	61件

(エ) 糖尿病（日本海総合病院）

医師・看護師・管理栄養士等が協働し、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を継続して行った。

【実績】糖尿病教室

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
開催回数	10回	13回	3回	15回
参加人数	28名	34名	6名	46名

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実患者数	5名	3名	11名	11名
指導回数	25回	10回	42回	54回

【実績】教育入院患者数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
239名	217名	156名	94名

【実績】個別栄養指導件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院	2,715件	2,462件	2,517件	2,751件
外来	926件	970件	792件	895件
外来化学療法	—	—	135件	17件

目標とする糖尿病教室の開催回数については、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
糖尿病教室	12回以上	15回

(オ) 精神疾患（日本海総合病院）

地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図りながら、身体合併症患者への診療等、総合病院として担うべき医療を提供した。

【実績】他の精神科病院から日本海総合病院に紹介等され入院した患者数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
51件	64件	84名	66名

(カ) 小児・周産期医療（日本海総合病院）

- ① 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応等、周産期に係る高度な産科医療を提供した。

【実績】母体・新生児救急受入れ患者数等状況

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
母体	17名	10名	15名	9名
新生児	10名	4名	3名	1名
緊急帝王切開術	33件	56件	46件	38件

- ② 庄内地域における不妊治療体制の拡充を図るため、日本海総合病院における「生殖医療センター」を開設し、一般不妊治療に加えて庄内地域で唯一となる生殖補助医療の提供体制を構築した。これにより、庄内地域内で高度な生殖医療を受けられる環境の整備が進み、遠方からの通院負担の軽減、妊娠から出産まで一貫した医療提供による患者満足度の向上といった多面的な成果が今後見込まれる。

生殖医療センター診療開始日：一般不妊治療 令和7年4月7日

生殖補助医療 令和7年5月1日

- ③ 産婦人科専門医及び小児科専門医の体制により、地域の住民が安心して出産できる環境を提供した。また、三次周産期医療機関との連携を図り、母体・新生児の救急搬送を適切に行った。

産後ケア事業では酒田市、遊佐町、庄内町、にかほ市に加え、令和6年度は三川町とも契約を結び、育児不安を抱える母親等を支援した。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
母体	7名	12名	7名	10名
新生児	2名	2名	2名	2名

(キ) 回復期リハビリテーション（日本海酒田リハビリテーション病院）

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者に加えて、廃用症候群の患者のADL（日常生活動作）を改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、リハビリテーションを集中的に提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管リハ	237名	86,837回	245名	83,159回	229名	88,298回	170名	64,466回
運動器リハ	221名	57,168回	206名	57,561回	200名	59,931回	190名	48,565回
廃用症候群	35名	2,337回	22名	2,968回	29名	1,933回	47名	8,754回

(ク) 在宅医療支援及び療養支援

- ① 入退院支援センターにおいて、入院前より退院困難な要因の抽出を行い、経済的な問題等があれば、早期に社会福祉士へ情報提供、また、在宅療養への不安がある患者については、入院前から退院支援看護師が介護保険の説明等を行い、不安軽減に努めた。

入院後の退院支援においても入退院支援センターの看護師、医療・福祉センターの社会福祉士が共同し、切れ目なくサービスが受けられるよう、地域の介護・福祉・医療機関等との連携を行った。退院困難の事例においては、多職種によるカンファレンスを行い、患者が住み慣れた地域での暮らし、患者家族が望む退院先を自己決定できるように支援を行った。

退院後においても、在宅療養で不安や問題が生じた際には、患者、家族からの相談にも応じ、在宅医や訪問看護、ケアマネジャー等とも情報共有を行い、継続した支援を実施した。

【実績】入院前スクリーニング実施件数（日本海総合病院）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
5,752名	5,525名	6,031名	6,661名

【実績】退院調整件数（日本海総合病院）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
他病院	927 件	994 件	1,107 件	1,175 件
在宅	12,862 件	12,351 件	12,637 件	12,351 件
介護老人保健施設	134 件	142 件	93 件	106 件
介護老人福祉施設	106 件	100 件	162 件	153 件
ショートステイ	120 件	135 件	122 件	91 件
有料老人ホーム	261 件	260 件	192 件	211 件
その他	68 件	50 件	66 件	103 件
合計	14,478 件	14,032 件	14,379 件	14,190 件

【実績】在宅療養支援職員との連携件数（日本海総合病院）

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
介護支援連携指導件数	599 件	477 件	649 件	659 件
退院時共同指導件数	212 件	149 件	202 件	150 件

- ② 地域における医療及び介護の連携強化と質向上を目的として、以下のとおり、研修会及び講演会等を開催した。また、3施設の個別の課題に対して日本海総合病院の認定看護師2名、専門看護師1名、社会福祉士1名を派遣し、教育・研修を実施することで各施設の課題解決に取り組んだ。

【実績】施設向け研修（日本海総合病院）

研修種別	回数	延べ人数
医療サポート研修会	5 回	380 名
医療と介護の合同研修会	2 回	184 名
人的資源活用研修会	3 回	49 名
地域住民向け研修会（在宅ケア講演会）	1 回	302 名

- ③ 在宅医療を行っている診療所や介護施設等と連携を図り、入院治療が必要となった患者の受入れを適切に行い、レスパイト入院を行った。

【実績】診療所からの入院受入患者数（日本海酒田リハビリテーション病院）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
28 名	32 名	36 名	19 名

（ケ）一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実（日本海八幡クリニック等診療所）

- ① へき地医療等、地域医療の維持・確保のため、診療所が設置されている各地域において、日常的な病気やけが等の患者に医療とプライマリ・ケアを提供し、必要に応じて高度及び専門医療機関等に紹介するなど連携を図り、医療の提供を行った。

【実績】日本海総合病院への紹介件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
日本海八幡クリニック	337 件	347 件	410 件	433 件
松山診療所	80 件	52 件	64 件	59 件
飛島診療所	15 件	7 件	5 件	1 件

【実績】日本海総合病院以外への紹介件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
日本海八幡クリニック	132 件	87 件	82 件	107 件
松山診療所	22 件	12 件	18 件	17 件
飛島診療所	—	5 件	2 件	2 件

- ② 遠隔診療・オンライン診療等を活用し、中山間地域において身体状況や交通手段の制約により通院が困難な患者に対し、医療MaaS（Mobility as a Service）事業を推進し、継続的な医療提供を実現したことで、受診率の向上や患者の治療中断防止といった成果が今後見込まれる。

また、災害時には医療アクセスの確保に寄与し、被災地域における迅速な医療支援に貢献した。

【実績】医療MaaS・遠隔診療

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
日本海八幡クリニック医療 MaaS	—	—	—	375 件
飛島診療所遠隔診療	381 件	320 件	292 件	217 件

イ 高度医療機器の計画的な更新・整備（日本海総合病院）

高度専門医療等の医療機器の更新にあたっては、整備計画を策定し、それに従い整備を行った。財源としては起債及び剰余金を活用した。

高度医療機器については、デジタルマンモグラフィシステム、内視鏡部門システム、不妊治療機器、デジタルX線TVシステム等、医療機器整備計画及び利用見込み並びに収支予測を行い、計画的に更新・整備を行った。

ウ 災害時への対応（日本海総合病院）

- ① 災害拠点病院として機能するよう、動画配信による研修会、トリアージ研修会、机上訓練及び実働訓練を開催し、災害時の対応に備えた。

【実績】災害医療研修及び訓練

実施日	内 容	参加人数
令和6年5月30日～ 令和6年10月5日	（災害医療研修会／動画配信） 災害医療の基礎とトリアージ	699 名
令和6年7月5日	（災害医療研修会／トリアージ研修会） 模擬患者を使った” トリアージ研修会”	104 名

令和6年9月14日	(災害対応訓練／机上訓練) 災害机上訓練	162名
令和6年10月5日	(災害対応訓練／実働訓練) 災害実働訓練	207名

災害時に必要な医療物資等及び食料の備蓄を実施するとともに、燃料等の優先納入契約に関する協定を継続した。

【実績】医療物資等及び食料の備蓄

年 度	内 容
令和6年度	アルファ米 70 箱・カロリーメイト 60 箱・ようかん 10 箱・野菜ジュース 35 箱、飲料水 126 箱

【実績】燃料等の優先納入契約に関する協定

締結日	内 容
令和6年4月1日	災害時におけるA重油の優先供給に関する協定
令和6年4月1日	災害時におけるガソリン等の優先供給に関する協定

目標とする災害等に係る訓練及び研修会数については、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
災害等に係る訓練及び研修	4回以上	4回

- ② 令和6年7月25日の豪雨による酒田市八幡・松山地区の被害への対応の為、7月28日から30日に延べ15名のDMAT隊員を派遣し、避難所アセスメント・保健医療福祉調整支援を行った。

大規模地震時医療活動訓練（政府総合防災訓練）への参加や、庄内地域を震源地と想定した東北ブロックDMAT参集訓練時に、当院にDMAT活動拠点本部を設置し実災害への対応力向上を図った。また各種研修会に参加し、職員の技能維持等に取り組んだ。

SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運営協力として、山形県所有のSCU医療資材について、日本海総合病院で保管・点検等を実施し、緊急時に備えた。

エ 新興感染症等の健康危機への対応

- ① 第二種感染症指定医療機関として、結核をはじめとする感染症患者の診療を積極的に実施し実患者298名を受け入れた。感染経路別予防策に応じた対策を行い、適切な入院環境の提供に努めている。

- ② 山形県と医療措置協定を締結し、第一種協定指定医療機関として、流行初期から患者の入院を受け入れる病床確保や個人防護具の備蓄を実施した。

有事に備えて、年間2回の院内感染対策研修会に加え、庄内保健所や鶴岡市立荘内

病院と共催で新興感染症等の発生を想定した合同訓練を行った。また、今年度新たに仙台検疫所主催の新型インフルエンザ等対応訓練に参加した。

I C T（感染制御チーム）及びA S T（抗菌薬適正使用支援チーム）が、主催の感染対策地域連携合同カンファレンスや保健所主催の庄内AMR（薬剤耐性）等対策ネットワーク参画により、平時から関係機関と顔の見える関係を築くことができている。

【実績】感染対策に係る活動について（日本海総合病院）

実施日	内 容	参加者
令和6年6月20日 9月19日 12月19日 令和7年3月6日 (オンライン開催)	感染対策地域連携合同カンファレンス ・参加施設からの報告 ・感染対策向上加算について ・抗菌薬適正使用について	・医療機関 ・薬剤師会及び調剤薬局 ・高齢者施設等 ・関係行政機関
令和6年10月9日	・検疫患者における新型インフルエンザ等対応訓練	
令和6年12月11日 (オンライン開催)	新興感染症等の発生を想定した合同訓練 ・P P E（個人防護具）の正しい着脱方法について ・新興感染症の初動対応及び平時の対応について	
令和6年4月25日 6月25日 8月23日 10月21日 12月20日 令和7年2月20日	庄内AMR（薬剤耐性）等ネットワークコアメンバー会議 ・感染症発生状況 ・庄内地域サーベイランス調査研究 ・流行中の感染症について ・V R Eについて ・サーベイランス事業参加について	
令和6年10月21日	庄内AMR（薬剤耐性）等対策ネットワーク研修会 ・結核について	

【実績】新興感染症の発生を想定した研修又は訓練（日本海総合病院）

実施日	内 容	参加者
令和6年10月9日	検疫患者における新型インフルエンザ等対応訓練	・医療機関 ・関係行政機関
令和6年12月11日 (オンライン開催)	新興感染症等の発生を想定した合同訓練	

目標である新興感染症の発生を想定した研修又は訓練について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
新興感染症の発生を想定した研修又は訓練	2回以上	2回

オ 政策医療の実施

- ① 認知症疾患医療センターとして、認知症患者の状況等に応じた専門医療相談、鑑別診断等を実施した。

【実績】認知症疾患医療センター相談件数（日本海総合病院）

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新規	442 件	435 件	435 件	459 件
継続	207 件	250 件	209 件	245 件

- ② 脳死下臓器移植について、山形県臓器移植推進機構の協力を得ながら、院内コーディネーターを対象とした脳死下臓器移植等に係る研修を実施した。また、県主催の院内コーディネーター連携会議にも参加した。

【実績】臓器提供シミュレーション等臓器提供に関する研修（日本海総合病院）

実施日	内 容	参加人数
令和6年7月5日	多臓器提供施設の取り組みに係る事例研修	10 名

目標である脳死判定シミュレーション等臓器提供に係る研修について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
脳死判定シミュレーション等臓器提供に係る研修	1 回以上	1 回

（２）医療スタッフの確保及び資質向上

ア 医療人材の確保・育成

- ① 高度専門医療等の安定的な提供を図るため、医師、薬剤師、看護師のほか医療職7職種の募集、職員採用試験を計画的に実施し、医療従事者の確保に努めた。

【実績】採用者人数（令和6年度採用試験）

職 種	受験者数	内定者数	令和7年4月入職数	備 考
初期臨床研修医	31 名	13 名	13 名	
研修歯科医	4 名	2 名	2 名	
看護師	43 名	35 名	34 名	国試不合格1名
薬剤師	4 名	3 名	2 名	国試不合格1名
臨床検査技師	2 名	0 名	0 名	
臨床放射線技師	5 名	1 名	1 名	
理学療法士	7 名	3 名	3 名	
作業療法士	3 名	1 名	1 名	
言語聴覚士	3 名	2 名	2 名	
管理栄養士	5 名	2 名	2 名	
社会福祉士	7 名	2 名	1 名	国試不合格1名
計	114 名	64 名	64 名	

- ② 医師の働き方改革の動向を踏まえ、特定行為管理委員会において、看護師の特定行為研修修了者を積極的に活用するための環境を整備し、医師の負担軽減を図った。

特定行為	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
侵襲的陽圧換気の設定の変更	182 件	123 件	110 件	116 件
人工呼吸器からの離脱	82 件	6 件	—	—
気管カニューレの交換	3 件	—	—	6 件
胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	42 件	7 件	24 件	40 件
膀胱ろうカテーテルの交換	7 件	—	3 件	1 件
持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	—	1 件	—	—
持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	—	2 件	—	—
持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整	—	—	—	1 件
インスリン投与量の調整	—	—	3 件	3 件
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	3 件	—	—	10 件
創傷に対する陰圧閉鎖療法	3 件	—	—	—
創部ドレーンの抜去	2 件	—	—	—
直接動脈血穿刺または直接動脈穿刺法による採血	1 件	—	37 件	66 件
脱水症状に対する輸液による補正	—	4 件	2 件	—
橈骨動脈ラインの確保	129 件	85 件	136 件	172 件
気管チューブの位置調整	—	—	—	7 件
合計	454 件	228 件	315 件	422 件

※令和3年度から算出開始

- ③ 新専門医制度の下で、基幹施設として研修実施可能な4診療科（内科、外科、産婦人科、麻酔科）及び連携施設（内科、外科、精神科、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、脳神経外科、形成外科、放射線科、病理診断科）として、多くの専攻医を受け入れ、医師確保に努めた。

【実績】マッチング状況

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
定員	13 名	13 名	13 名	13 名
充足率	100%	100%	100%	100%

【実績】臨床研修医及び専攻医（レジデント）受入れ人数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
68 名	67 名	73 名	74 名

目標とする初期臨床研修医マッチングについて、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
初期臨床研修医マッチング	フルマッチ	フルマッチ

④ 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研修のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図るため、外部講師派遣による役職別研修や各部門独自で専門能力を高める研修をした。また、医師臨床研修にかかる指導医講習会の受講者は5名、プログラム責任者養成講習会は1名が受講し修了した。

⑤ 看護師及び助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与を継続して行った。さらに、薬剤師の確保を目的として、薬剤師就学資金貸与制度を構築した。

【実績】看護師等修学資金の貸与

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
貸与	貸与者	15名	14名	14名	12名
	うち新規貸与決定者	5名	4名	4名	5名
終了	貸与終了者 (A)	4名	5名	4名	5名
	うち法人就職者 (B)	2名	4名	3名	5名
	入職率 (B/A)	50%	80%	75%	100%

⑥ 看護師の資質向上のため、認定看護師の新規取得のほか、特定行為看護師研修者を育成した。

【実績】各種看護師資格の新規取得者数（法人全体） ※期間中5名以上

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
認定看護師	1名	2名	0名	1名
専門看護師	0名	1名	1名	0名
特定行為研修	2名	3名	2名	2名
計	3名	6名	3名	3名

目標とする各種看護師資格の取得者及び特定行為研修修了者数について、目標値どおり実施することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
各種看護師資格の新規取得者数	中期計画期間中 5名以上	3名
特定行為研修修了者	中期計画期間中 4名以上	2名

※年度目安：各種看護師資格新規取得者数1～2名以上、特定行為研修修了者数1名以上

イ 事務職員の確保と専門性の向上

新規採用職員の研修を通して基礎的知識の修得に努めたほか、今年度新たに事務部門内でモーニングセミナーを6回開催し、病院組織・医事・契約事務等の専門性向上に努めた。

事務職員の専門性向上のため、事務職員資格取得支援制度を活用し、令和6年度は診療情報管理士に1名合格し、新たに通信教育（診療情報管理士）の受講を3名が開始した。

医師事務作業補助者のキャリアパスプランを策定し、必要なスキルや目標を明確にする
とともに個人のスキルに応じた教育・支援体制を構築した。

ウ 職員の勤務環境の改善

- ① 医師の働き方改革を踏まえた適切な労務管理の推進、麻酔アシスタント・特定行為
研修修了者等の積極的な活用の推進によるタスクシフト・タスクシェアを図り、全医
師がA水準を達成した。また、時差出勤等の活用を推進し、柔軟な勤務形態の環境整
備に努めた。

目標とする医師の時間外労働規制について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
医師の時間外労働規制	A水準	A水準

- ② 職員が健康を維持し、また、業務に専念できるよう定期健康診断を実施した。
ストレスチェックに加え、長時間労働者については産業医面談を実施し職員の健康維
持に努めた。

ハラスメント研修として「カスタマーハラスメント」についてを実施し、50名の参
加、Web受講509名とハラスメント対策の充実を図った。

【実績】ストレスチェックの受診状況(日本海総合病院)

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実施率	91.10%	89.50%	79.00%	79.40%

- ③ 介護や子育て等、家庭環境に配慮した支援及び医師のキャリアパスに配慮した医師
短時間正職員制度や育児部分休業等の制度の活用を推進し、さらに院内保育所の24時
間対応や病児・病後児保育の継続等、働きやすい環境づくりを進め、職員のワーク・ラ
イフ・バランスの向上に努めた。

【実績】医師短時間職員制度等の利用状況

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
医師短時間	3名	3名	2名	3名
育児部分休業	0名	1名	2名	4名
育児短時間勤務	1名	1名	1名	0名
育児時間	31名	40名	52名	71名
ベビーシッター等助成金	0名	0名	0名	1名
ハウスクリーニング等助成金	3名	2名	2名	2名
屋外清掃作業助成金	1名	0名	1名	1名

- ④ 病棟、外来及び文書作成に医師事務作業補助者を下記のとおり配置し、医師をはじめとする各職種の労働時間短縮・負担軽減を図り、効率的な業務遂行に務めた。

【実績】医師事務作業補助者配置数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
70名	76名	79名	79名

(3) 医療サービスの効果的な提供

ア 地域連携の推進

- ① 地域医療構想の実現及び地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、看護管理者間、介護施設間の連携強化等を行い、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

- ② 庄内南部の医療機関へ医師を派遣し、庄内地域の医療連携の推進に努めた。

地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」をはじめとしたICTの活用などにより、山形県全域および秋田県との地域及び医療圏を超えた広域的な医療連携、「あきたハートフルネット」との診療情報の相互連携を継続的に行った。全国的な取り組みである全国ID-Link EHRに参加し、参加している国内の医療機関と連携できる基盤を構築した。

【実績】ちようかいネット・あきたハートフルネット相互閲覧件数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
41件	48件	55件	88件

【実績】ちようかいネット・あきたハートフルネット相互閲覧件数（主要コンテンツ別）

コンテンツ	令和3～6年度 合計
処方（指示）	11件
注射（指示）	4件
検査	14件
画像（指示）	51件
レポート	11件
画像一覧（画像の閲覧）	118件
ノート（記録）	23件

- ③ 地域の医療サービスを効果的に提供するため、連携協力医登録制度を活用し、医療福祉センターの逆紹介サポート窓口において、社会福祉士が患者と面談し逆紹介について相談できる体制を構築するなど、かかりつけ医への紹介等連携を図った。

【実績】紹介率、逆紹介率（日本海総合病院）

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
紹介率	62.4%	67.8%	70.9%	70.3%
逆紹介率	97.1%	97.0%	98.2%	99.2%

目標とする紹介率及び逆紹介率について、目標値を上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
紹介率	65%以上	70.3%
逆紹介率	95%以上	99.2%

イ 診療情報の共有化、地域連携クリティカルパスの活用

- ① 地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」の拡大や活用促進に主体的に取り組み、他の医療機関や薬局、介護・福祉施設等との診療情報の共有化の推進を図ったことから、前年度と比べ登録患者が6,003名増加した。

【実績】登録患者数等

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
登録患者数	55,131名	60,650名	66,457名	72,460名
開示施設数	8施設	8施設	8施設	6施設
閲覧施設数	237施設	249施設	264施設	268施設

- ② 効率的で適切な医療を提供するため、患者への負担軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリティカルパスを継続して活用した。地域連携クリティカルパスの運用により、他の医療・介護福祉機関と連携し支援を行った。

【実績】地域連携クリティカルパス適用件数

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
大腸がん	24件	11件	1件	16件
乳がん	7件	8件	9件	1件
胃がん	15件	9件	0件	0件
大腿骨近位部骨折	102件	88件	99件	100件
脳卒中	183件	165件	172件	168件
前立腺がん	5件	0件	2件	0件

ウ 医療DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

- ① マイナ保険証の利用促進のため、再来受付機のうち3台を顔認証付きカードリーダーと連携し、マイナ受付と同時に再来受付が行えるよう改修した。

医療費助成のオンライン資格確認および救急時医療情報閲覧機能を導入し、医療データの利活用を推進した。

医師のHPKIカードの取得を推進し、電子処方箋の利用を促進することで地域の医療安全向上に努めた。

【実績】マイナ保険証利用件数等

区 分	令和5年度	令和6年度
マイナ保険証利用件数	6,227件	92,262件
電子処方箋発行枚数	48,858件	69,656件

- ② 医療・介護・福祉連携の推進を図るため、酒田市と協働して、医療・介護情報共有サービス「Team」を導入し、酒田市の医療機関・介護施設など 147 施設が参加した。

【実績】「Team」参加施設数

診療所	22 施設	訪問介護（ヘルパー）	7 施設	グループホーム	10 施設
病院	6 施設	訪問リハビリ	2 施設	特別養護老人ホーム	9 施設
居宅介護支援	24 施設	デイサービス・デイケア	18 施設	介護老人保健施設	5 施設
地域包括支援センター	10 施設	ショートステイ	6 施設	その他	14 施設
訪問看護	8 施設	小規模多機能型居宅介護	6 施設	計	147 施設

（４）教育研修事業の充実

ア 庄内地域における医療水準の向上

- ① 庄内地域における医療水準の向上に寄与するため、臨床研修医及びレジデントの受入れ並びに山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学や自治医科大学からの地域医療実習生を継続して受入れ、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】臨床研修医等の受入れ状況（日本海総合病院）

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
臨床研修医	26 名	28 名	28 名	27 名
専攻医（レジデント）	42 名	39 名	45 名	47 名
スチューデントドクター（山形大学）	68 名	66 名	64 名	65 名
高次臨床修練生（東北大学）	1 名	2 名	1 名	2 名
都道府県拠点病院実習（自治医科大学）	—	—	1 名	1 名

酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として看護師を育成するなど、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】酒田看護専門学校実習実績（日本海総合病院）

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
実習学生数	73 名	77 名	82 名	79 名

【実績】酒田看護専門学校実習実績（日本海酒田リハビリテーション病院）

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
実習学生数	—	—	6 名	8 名

薬学科生 5 名の実習生の受入を行い、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】薬学生実務実習実績（日本海総合病院）

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
実習学生数	4 名	3 名	3 名	5 名

- ② 救急救命士の技能向上等が図れるよう、救急救命士養成課程の就業前研修、再教育実習、山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計 37 名の実習生の受入れを行った。

【実績】実習生受入人数（日本海総合病院）

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
就業前研修	3 名	2 名	1 名	2 名
再教育実習	31 名	30 名	31 名	31 名
病院実習	7 名	4 名	3 名	4 名
計	41 名	36 名	35 名	37 名

イ 住民意識の啓発活動（日本海総合病院）

- ① 住民の健康意識の向上のため、住民を対象としたセミナーとして、生涯学習施設「里仁館」が主催した健康講座に職員を派遣し、関係機関と連携し、啓発活動に努めた。また、地域住民を対象に市民公開講座を開催し、がんに関する情報提供を行った。

【実績】健康講座（開催場所：酒田市総合文化センター）

開催日	内 容	参加人数
令和 6 年 6 月 5 日	『熱中症について』 救命救急センター長 陳 正浩	16 名
令和 6 年 7 月 3 日	『当院での心臓血管外科診療』 診療部長（兼）心臓血管外科部長 金 哲樹	18 名
令和 6 年 7 月 31 日	『感染症の予防』 検査部技師長 齋藤 裕紀	12 名

【実績】がん診療連携拠点病院公開講座

開催日	内 容	参加人数
令和 6 年 8 月 25 日	がんは薬で治る時代へ 科学的がん免疫療法 昭和大学医学部 角田 卓也 氏	128 名

- ② それぞれの病院や診療所の役割等に関する情報を分かりやすく提供するため、ホームページでの病院情報の発信や病院広報誌「あきほ」の発行により、地域住民に分かりやすく、かつ幅広い情報発信を行った。

【実績】病院広報誌発行回数

令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
4 回	4 回	4 回	4 回

目標とする病院広報誌発行回数について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和 6 年度実績
病院広報誌発行回数	4 回以上	4 回

3 患者・住民の満足度の向上

患者サービス向上に向け、患者アンケート調査を実施し患者の声を適切に把握するとともに、患者サービス向上の一助とするため、職員満足度調査を実施した。そのほかにも、外来待ち時間調査の実施や、「医療接客マナーの心得」の周知を行った。

院内のWi-Fiを整備し、院内環境の快適性の向上に努めた。

目標とする患者満足度について、入院患者満足度のみ目標値を超えることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
入院患者満足度	96%	98.9%
外来患者満足度	96%	95.7%

4 法令等の遵守と情報公開の推進

① 職員研修において、法令及び倫理綱領並びに業務執行等におけるコンプライアンスの内容を周知するとともに、法令遵守、職務遂行を就業規則に規定し院内イントラネットで常時周知するなど、職員に対して周知徹底に取り組んだ。

② 医療情報の開示については、インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び法人規程に基づき、県の期間に準じて適切に行った。

文書管理についても、山形県公文書等の管理に関する条例に基づき、保存・廃棄等適切に対応した。

【実績】診療情報提供申出件数（日本海総合病院）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
59件	43件	57件	77件

5 医療安全対策の充実・強化

（1）医療事故等の防止

住民に信頼される安全で安心な医療を提供するため、医療安全対策に関する研修を2回行った。診療報酬改定にあわせた研修や医療安全の更なる推進を目的とした研修会を行い、病院全体の医療安全の強化を図った。

開催方法については、開催当日の集合研修のほかに、未受講者に対してeラーニングによる動画配信を行った。未受講者に対しては、定期的に受講の呼びかけを行い、多くの職員が受講できるよう取り組んだ。

【実績】医療安全研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和6年11月20日	第1回 身体拘束最小化チーム医療安全全体研修会 『当院の身体拘束の実施状況、身体拘束最小化のための指針、身体拘束の運用』 看護部 医療安全管理者 富澤晴美 看護部 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 杉山貴子 看護部 老年看護専門看護師 五十嵐千里 『死亡診断書お渡しまでの留意事項について』 医事課 診療支援係 主任 佐藤悦子	1,163名
令和6年12月19日	第2回 クリニカルパス・医療安全全体研修会 『レジリエンス向上を目指したクリニカルパスの運用～医療安全と質保証に生かすために～』 山梨大学大学院 総合研究部医学域 臨床医学系 特任教授 小林 美亜 氏	1,155名

医療安全対策に関する他医療機関との相互評価について、医療機関間で意見を交わし、互いの医療機関での医療安全の更なる向上に繋がられた。

【実績】医療安全地域連携対策加算に伴う他医療機関との相互評価

開催日	評価対象病院	評価実施病院
令和6年10月17日	鶴岡市立荘内病院	日本海総合病院
令和6年11月21日	日本海総合病院	鶴岡市立荘内病院
令和7年3月4日	日本海酒田リハビリテーション病院	日本海総合病院
令和7年3月4日	順仁堂遊佐病院	日本海総合病院

【実績】院内感染対策研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和6年8月19日	第1回院内感染対策研修会 『感染対策の概論・総論、当院の抗菌薬使用状況』 対面・動画配信	1,159名
令和6年11月18日	第2回院内感染対策研修会 『感染対策と感染症治療の心構え』 対面・動画配信	1,168名

【実績】医療安全研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和7年3月11日	第1回 医療安全研修会 転倒予防のために 「動きやすい介助方法の検討と実践」	104名
令和7年3月18日	第2回 医療安全研修会・動画配信 医薬品関連医療安全情報の振り返り	129名

【実績】院内感染対策研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和6年7月3日 令和6年7月11日 令和6年7月23日	第1回 院内感染対策研修会・動画配信 予防の基本（手指衛生、標準、経路別予防策）	104名
令和6年11月18日 令和6年11月22日 令和6年11月26日	第2回 院内感染対策研修会・動画配信 病棟における感染症患者発生時の対応	129名

目標とする医療安全対策及び院内感染対策に係る研修回数については、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績	
医療安全対策及び院内感染対策に係る研修	2回以上	日本海総合病院	2回
		日本酒田リハビリ病院	2回

（2）情報セキュリティ対策の強化

厚生労働省が定める医療情報システムの安全管理に関するガイドライン等を踏まえ、適切な情報管理やランサムウェア対策等、情報セキュリティの強化を図るため、全職員に向けたeラーニング研修を実施し、地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」に新規参加する介護事業者及び新たに利用開始するユーザーに対して、対面でのセキュリティ研修会を実施した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 組織マネジメントの強化、災害発生時の業務継続性の確保

- ① 運営委員会、診療部運営会議、業務改善委員会、経営戦略会議等の定期的な開催を通して、内部統制の推進を図った。

自律性のある効率的な業務運営を行うため、内部による医療費未収金集金業務及び旅費の支給状況に係る会計監査を実施した。

目標とする内部監査の項目数について、目標値どおり実施することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
内部監査	2項目	2項目

- ② 災害発生時等において、非常時の業務マネジメント体制を整備しておくとともに、BCP（事業継続計画）に基づき業務の継続性を確保できるよう、災害対策マニュアル・BCPマニュアル等の見直しを行った。

- ③ サイバー攻撃を想定した情報システムBCPを策定し、マネジメント体制を整備した。
サイバーインシデント対応についてBCPに沿った机上訓練を実施し、課題が見つかった箇所についてBCPの改訂を行い、業務の継続性の確保に努めた。

2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用

地域の医療ニーズ等の変化に迅速かつ的確に、定期的な人事異動により適材適所の配置に努めるとともに、時差出勤制度を導入し多様な勤務形態を活用することで、診療体制の適正化を図った。

3 業務の効率化、職員の意欲向上

- ① 各種委員会等において、業務プロセスの見直しや課題等への対応を適切に行い、業務の効率化に努めた。

各業務においては、連携、機能分化の推進に努めるとともに、業務負担軽減に繋がるようタスクシフティングの推進等に努めた。

【実績】業務改善委員会（日本海総合病院）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新規提案	33 件	15 件	21 件	34 件
終了	27 件	19 件	18 件	20 件

- ② 職員の能力や経験を適切に評価し、昇任に反映させ意欲向上を図るとともに、将来の病院経営を担う人材を育成するため、リーダーシップを発揮できる人材の育成を行った。

4 経営基盤の安定化

（1）収入の確保

- ① 診療報酬改定等をはじめ各種制度の変化に迅速に対応するため、新たな施設基準の取得や見直しを行い、増収を図った。

【実績】R6.6～R7.3

区 分	金 額
新規施設基準取得による増収額	113,042,140 円

※ベア評価料を含む新規で届出したもの

※新規であっても、急性期充実体制加算1等のように再編されたもの、特定集中6・ハイケア1のように別の特定入院料に変更したものは除く。

日本海総合病院ではDPC係数等に対する分析及び評価を適切に行い、令和6年度もDPC特定病院群が適用となった。また、収益の確保を図るため経営戦略会議にて要件の確認及び報告を行い、データ解析を進めた後、運用改善を院内の関係部署と連携しながら実施した。

目標とするDPC特定病院群の適用については、目標値どおり維持することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
DPC特定病院群適用	期間中継続	適用

- ② 退院時会計の推進等により、現金支払い・クレジットカード支払いに加え、後払いサービスを導入し、支払い方法を増やすことで患者の利便性を向上させ未収金の発生防止に努めた。

未収金回収業務においては、定期的な電話連絡や集金業務に加え、委託業者とも連携し早期に回収に努めた。

(2) 費用の抑制

- ① 医療を取り巻く環境の変化や患者動向に対応し、給与水準や職員配置の適正化、業務の委託等により人件費の適正化に努め、材料費についても、収益の状況を把握しながら費用削減に努めた。また、医薬品については、地域フォーミュラリの推進を図り、後発医薬品の使用促進に努めた。

【実績】後発医薬品数量シェア率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
日本海総合病院	90%	90%	92%	93%
日本海酒田リハビリテーション病院	94%	95%	95%	95%

目標とする後発医薬品数量シェア率の目標値については、日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院ともに上回ることができた。

【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和6年度実績	
後発医薬品数量シェア率	85%以上	日本海総合病院	93%
		日本海酒田リハビリテーション病院	95%

- ② バイオ医薬品については、後続品であるバイオシミラーへの切り替えを実施した。

【実績】バイオシミラーへの切替

先発品	後続品
ヒューマログ注	インスリンリスプロ BS 注
レミケード	インフリキシマブ BS
ヒュミラ皮下注	アダリムマブ BS 皮下注

第3 予算（人件費の見積りを含む）、収支及び資金計画

効率的かつ効果的な経営を持続するため、運営委員会や経営戦略会議等において、各職員へ経営状況の情報共有等を図った。

適切な資金計画に基づき、法人全体の資金収支の均衡や短期借入金の抑制を図った。

目標である経常収支比率及び純資産額について目標値には届かなかったが、修正営業収支比率の目標値は上回ることができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和6年度実績
経常収支比率	100%以上	99.6%
修正営業収支比率	95%以上	95.6%
純資産額（単位：百万円）	前年度の額以上	△ 120

別表 1 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	26,447	26,256	△ 191
営業収益	25,167	24,974	△ 193
医業収益	23,735	23,481	△ 254
運営費負担金	1,432	1,493	61
営業外収益	271	224	△ 47
運営費負担金等	36	36	0
その他	235	188	△ 47
臨時利益	10	17	7
資本収入	999	1,041	42
運営費負担金等	564	564	0
長期借入金	415	370	△ 45
その他	20	107	87

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支 出	27,564	26,906	△ 658
営業費用	23,702	23,969	267
医業費用	23,489	23,793	304
給与費	11,344	11,313	△ 31
材料費	7,659	8,400	741
経費	4,344	3,993	△ 351
研究研修費	142	86	△ 56
一般管理費	213	175	△ 38
営業外費用	112	99	△ 13
臨時損失	0	0	0
資本支出	3,750	2,838	△ 912
建設改良費	2,620	1,708	△ 912
長期借入金返還金	1,122	1,122	0
奨学金貸付	7	7	0
その他	1	0	△ 1

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

別表 2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	25,985	25,769	△ 216
営業収益	25,759	25,523	△ 236
医業収益	23,692	23,436	△ 256
運営費負担金収益	1,432	1,493	61
資産見返運営費負担金等戻入	635	594	△ 41
営業外収益	216	226	10
運営費負担金収益	36	36	0
その他医業外収益	180	190	10
臨時利益	10	20	10
支 出	25,913	25,870	△ 43
営業費用	24,493	24,521	28
医業費用	24,298	24,356	58
一般管理費	195	165	△ 30
営業外費用	1,406	1,332	△ 74
臨時損失	14	18	4
純 利 益 (△純損失)	72	△ 101	△ 173

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

別表 3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	37,800	41,832	4,032
業務活動による収入	25,381	25,174	△ 207
診療業務による収入	23,735	23,434	△ 301
運営費負担金による収入	1,468	1,540	72
補助金等収入	65	64	△ 1
その他の業務活動による収入	113	136	23
投資活動による収入	5,066	7,073	2,007
有価証券の売却による収入	0	500	500
定期預金の払出による収入	4,500	6,000	1,500
運営費負担金による収入	564	564	0
奨学金の返還による収入	1	1	0
その他の投資活動による収入	1	7	6
財務活動による収入	415	370	△ 45
長期借入による収入	415	370	△ 45
前年度からの繰越金	6,938	9,216	2,278
資金支出	32,065	32,187	122
業務活動による支出	23,814	23,997	183
人件費支出	11,344	11,283	△ 61
材料費支出	7,659	8,307	648
その他の業務活動による支出	4,811	4,407	△ 404
投資活動による支出	7,128	7,068	△ 60
有形・無形固定資産の取得による支出	2,620	1,561	△ 1,059
有価証券の取得による支出	0	0	0
定期預金の預入による支出	4,500	5,500	1,000
奨学金の貸付による支出	7	7	0
その他の投資活動による支出	1	0	△ 1
財務活動による支出	1,123	1,122	△ 1
長期借入の返済による支出	1,103	1,103	0
移行前地方債償還債務等の 償還による支出	20	20	0
翌年度への繰越金	5,735	9,645	3,910

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

第4 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

第5 剰余金の使途

決算剰余金については、建設改良積立金に充当し、将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

第6 料金に関する事項

1 使用料及び手数料

(1) 法令等に基づき算定する使用料及び手数料

料金の額は、計画に記載の基準等の規定により算定した額を徴収した。

(2) その他の使用料及び手数料

計画に記載の契約等による額とした。

2 使用料及び手数料の減免

該当なし

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 医療機器・施設整備に関する事項

① 医療機器については、費用対効果、地域の医療需要、他機関との機能分化、医療技術の進展等を総合的に判断し、母体胎児監視システム、電動ベッドの更新や、手術器具等の整備し、適切な医療の確保に努めた。

② 施設整備については、日本海総合病院において中長期計画に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を行った。日本海酒田リハビリテーション病院については、施設整備の実績はなかった。

【実績】修繕工事（日本海総合病院）

工事名	契約額 (千円)	概 要
非常用発電機改修工事	17,600	既存棟（エネルギー棟）に設置の非常用発電機のメーカー部品対応期間が超過している部品等を更新した。
空調機ユニット更新工事	46,035	耐用年数の超過と塩害により劣化している空調機2基を更新した。
ファンコイルユニット交換工事	29,150	耐用年数の超過により劣化しているファンコイルユニット43台を更新した。
空冷式エアコン更新工事	27,863	耐用年数の超過により劣化している南棟のエアコン部品及び室外機を更新した。
エレベーター更新工事	116,600	メーカー部品対応期間が超過している部品等を更新（4・5号機）した。

日本海八幡クリニック等診療所については、酒田市と協議を行いながら、医療機器・施設整備を行った。

【実績】医療機器・施設整備状況（日本海八幡クリニック等診療所）

年 度	件 数	内 容
令和3年度	2 件	八幡：血圧脈波測定装置更新 松山：電子カルテ導入
令和4年度	1 件	八幡：電子カルテ導入
令和5年度	5 件	各診療所：医療機器更新等
令和6年度	7 件	各診療所：医療機器更新等

- ③ 庄内地域における急速な人口減少・少子高齢化や地域医療構想等を踏まえ、病床 40 床廃止し最適な規模に見直しすることで病院機能の効率的な運用を図った。

「すこやかレディースクリニック」との不妊治療の集約化に伴い、庄内地域唯一の生殖補助医療の提供体制を構築した。

- ④ 高額な医療機器・施設整備の更新及び整備について、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な整備計画のもとに行い、計画どおりの更新・整備が実施できた。

【医療機器・施設整備の計画】（単位：百万円）

区 分	実 績	財 源
資本支出		
建設改良費	1,553	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	918	
医療機器等	635	

2 積立金の使途

前中期目標期間の繰越積立金については、施設の整備・修繕、医療機器の購入等に充てた。

3 その他法人の業務運営に関する事項

- ① 酒田市・公益財団法人やまがた健康推進機構および診療所等との連携、機能分担のもと、がん検診をはじめ地域の検診実施体制の充実を図った。

酒田市が実施している「内視鏡ドック」のうち、胸部CT、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査を受託し実施した。酒田市の内視鏡ドックと併せ、PET/CT検査の受診促進のため、市民に周知した。

【実績】内視鏡ドック、PET/CT検診

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内視鏡ドック	78 件	93 件	84 件	89 件
PET/CT検診（一般）	36 件	46 件	29 件	32 件
PET/CT検診（酒田市）	10 件	13 件	20 件	34 件
PET/CT検診（山形県市町村共済互助会）	22 件	24 件	30 件	40 件
PET/CT検診（酒田市）	0 件	2 件	0 件	4 件

- ② 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」により三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業（12/29～1/3）を除き、通年で事業を継続して実施した。また、定員 9 名とし当日予約の受入れや事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受診付添いサービス及び保育園等からの病児送迎サービスを実施した。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
利用者数	542 名	396 名	616 名	511 名
うち職員利用者数	235 名	167 名	228 名	153 名

【実績】受診付添サービス等利用者

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
受診付添サービス	3 名	0 名	5 名	1 名
病児送迎サービス	1 名	1 名	0 名	3 名